

『旅立ちの時』

1988年／アメリカ／シドニー・ルメット監督作品

家族って何？

会員 坂 仁根 (70期)



『旅立ちの時』
DVD 1,429円+税
ワーナー・ブラザーズ ホーム
エンターテインメント

今年のカヌ国際映画祭で最高賞パルムドールを受賞した是枝裕和監督の映画「万引き家族」を観て、この作品を思い出した。ともに「家族とは何なのか」という根源的な問いを考えさせる作品だからである。監督は「十二人の怒れる男」の名匠シドニー・ルメット、主人公は「スタンド・バイ・ミー」で脚光を浴びたリバー・フェニックス。

1 あらすじ

17歳の少年ダニー（リバー・フェニックス）は草野球の試合からの帰り道、自宅前に待機する不気味な車2台を見つける。そと裏口から弟を呼び出し、音の出ないキーボードの入ったケース一つだけを持ったダニーは、工作中的の両親のもとに駆け付け、一家四人は着の身着のままバンに乗り込み、住んでいた土地を後にする。実はダニーの両親は、ベトナム戦争に反対してナパーム弾研究所を爆破し、FBIから指名手配を受けているテロリストだったのだ。以来十数年、一家は偽名を使い、全米を転々として生きてきた。

新たな土地でダニーは、高校の音楽教師からピアノの才能を認められ、名門ジュリアード音楽院の受験を勧められる。ダニーは実技試験を突破、音楽教師の娘と恋仲にも陥る。ダニーが夢をかなえるために必要なのは、あとは以前通った学校の成績証明書だけだった。しかし、流浪の生活を送ってきたダニーに、そんなものは存在しない。やがて一家に、FBIの捜査の手が迫る…。

2 家族って何？

家族は、打ち寄せる社会の荒波から自分を守ってくれる最小単位である。人は家族を通じて他人とのコミュニケーションを学び、大人になっていく。しかし、成長した人間は、いつか家族から旅立たざるを得ない時がある。自らの希望を選ぶか、家族を選ぶか、その選択を突き付けられたとき、人はどう行動するのか。

取り上げられるのはダニーと両親の関係だけではない。ダニーの父と母にもそれぞれの家族があった。別離、争い、そして和解。映画は、家族のはらむ本質的葛藤を、ミステリー的要素も交え重層的に描いていく。そもそも、流浪の生活を送っていたダニーは、どこでピアノを覚えたのか。家族を守るため、両親が失ったかつての夢とは、最後に下した彼らの決断とは？

3 夭逝した天才俳優

ダニーを演じたリバー・フェニックス自身、宗教団体の活動家であった両親のもと、幼少のころ流浪に近い生活を送っていたという実話が、家族を愛しながら翻弄される主人公のいたいけな姿に重なる。夭逝したまぶしい天才俳優というと世間的にはジェームズ・ディーンであろうが、私の中では断然リバー・フェニックスである。ジェームズ・ディーンは24歳のとき交通事故で、リバー・フェニックスは23歳の時、おそらくは薬物の過剰摂取が原因で死亡した。しかし映画の世界で、彼らは永遠に生き続ける。